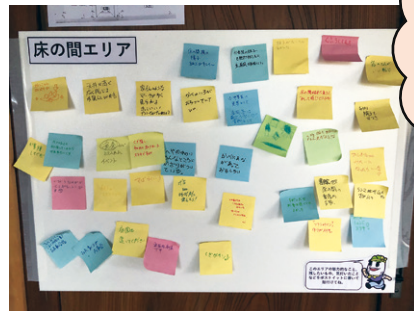


2023年度の取り組みについて

八千代町の財産である「旧中山家住宅」が、初めて一般公開されたことを受け、イベントを開催。町の歴史と建築に詳しいガイドと共に建物内を探索しながら、次世代に向けた古民家

活用アイデアと一緒に考えました。また、当時の暮らしの様子や中山家のしょうゆ醸造道具・商売用品などの展示や、次世代に残したいモノ・スポットを選ぶ投票も行いました。



イベント参加者の声

なかなか見ることができなかった建物内を見学することができました。こんなに立派な建物がこのまま朽ち果てていくのは残念なので、ぜひ後世に残せるよう、町と町民で盛り上げていければと思います。

こうした歴史的な不動産を公開することや、町の人に知ってもらう機会は素晴らしい。地元の高校生の協力があつたことも良いと思いました。八千代町は年々新しい試みをしている感があり、個人的にはイメージが変わってきています。

八千代町にこのような施設があると知って驚きました。

2024年度のこれからについて

●有識者会議の開催

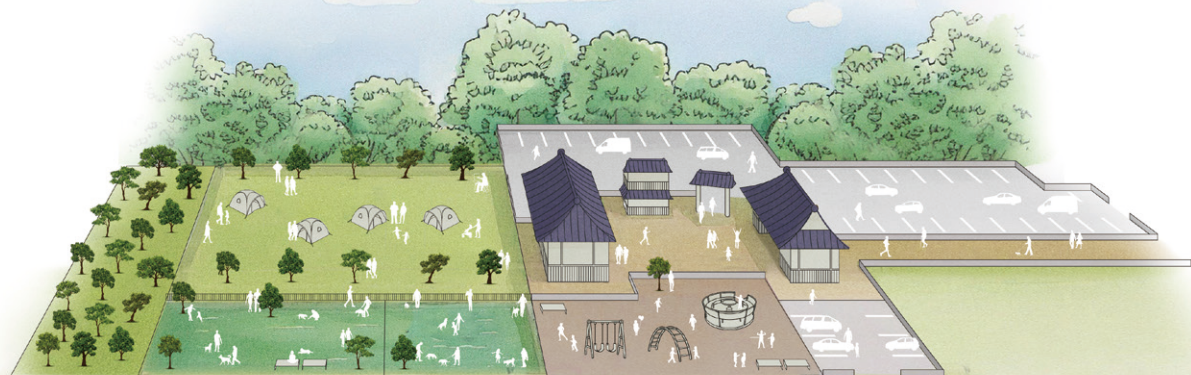
八千代町では、地域の方や有識者を交えて、2024年度内に3回の有識者会議を開催する予定です。会議ではアンケート結果やイベントに参加された住民の声、他地域の事例など

をもとに活用方法を検討。2025年度以降の具体的な改修計画策定や、サウンディング調査に向けてプランの検討を進めています。

●建物の改修・活用について

2025年度以降、利用意向のある事業者等からも意見を募集し、有識者会議の結果もふまえながら母屋・長屋門・蔵などの改修を計画しています。物件の活用に関心を

お持ちの方は、下記お問い合わせ先までご連絡ください。なお、本物件は保存のため、通常は立ち入りが禁止されています。



お問い合わせについて

主催:八千代町 秘書公室 まちづくり推進課

運営:株式会社 LIFULL

TEL:0296-48-1111 (内線3420)

MAIL:machisui3@town.ibaraki-yachiyo.lg.jp



八千代町



町の魅力と歴史を
次世代につなぐ場所へ

旧中山家住宅



旧中山家住宅について

「中山家」は八千代町川尻地域に古くから続く大地主の一族で、しょうゆ醸造等を通じて財を成し、地域経済の中心的存在として繁栄してきました。当主は代々、江戸期には「忠蔵」、明治以降は「忠造」を名乗り、明治から昭和にかけて副戸長や村長など地域の要職を歴任。町の歴史の中でも重要な役割

を果たしてきました。当主が亡くなられた後は、建物と敷地は早稲田大学に寄贈。大学の研修施設として活用できるよう母屋の一部施設を改造し、学生の農業体験等の合宿所として使用していましたが、令和4年3月、八千代町に寄付されました。

八千代町の歴史が詰まった古民家物件を、再び人々が集まり、交流できる場へ



明治37年(1904年)に建てられた、木造平屋建ての住宅。建物の面積は約390m²。屋根は寄棟造りの瓦葺きで、瓦は粘土製。どっしりとして落ち着いた外観が特徴です。寄棟造りとは寄棟屋根とも呼ばれるもので、建築物の屋根形式のひとつ。4方向に傾斜する屋根面を持つものをいいます。

母屋



広縁



室内と外部空間の中間部分にある「広縁」は、一般的には板張りが多いのですが、中山家では畳が敷き詰められています。



釘隠

10帖の和室には鴨居の上にある横木(長押など)には「釘隠(くぎかくし)」という金具が取り付けられています。釘の頭を隠して見た目をよくするためのものです。



奥に位置する10帖間には、床の間と違棚(ちがいだな)、付書院(つけしょいん)が備えられています。床の間の1つある10帖間は来客を出迎える部屋だったのかもしれませんが。

主玄関



母屋で一番目を引く玄関は、公式のお客様を迎え入れる入口専用の部屋。玄関には式台が備えられていて、それは経済的に豊かで社会的地位のある家の証でもありました。

大黒柱



小上がりにある柱は大黒柱で、太さは約37cm。小上がりの隣にある和室は広さ15帖で中山家の座敷の中でも一番広い部屋です。

土間



中に入ると土間が広がっており、土間には煮炊きをするための、かまどがあります。

長屋門



長屋門とは門の扉口の両側に部屋が設けられている形式の門のことです。中山家の長屋門は、門の両側部分にあるスペースを、使用人の住居や納屋として利用していたといわれています。

物件情報

土地：約11,484m²
建物：長屋門(1868年築、約114m²)/
木造瓦ぶき平屋建ての母屋(1904年築、約390m²)

八千代町について

八千代町は、関東平野のほぼ中央、茨城県南西部に位置し、東京から約60kmの距離にあります。温暖な気候と広大な田園地帯を有しており、古くから首都圏への生鮮食料供給基地として発展してきました。八千代町では様々な農産物が栽培されていますが、特に生産量日本一の「白菜」、全国有数の産地で

ある「メロン」、茨城県の銘柄産地に指定されている「梨」は市場関係者や消費者からも高く評価されています。また、自然災害に強い地域であるだけでなく、ほのぼのとした農村空間の中で、人間性が豊かで温かい方が多く、住み心地の良いところが最大の魅力です。

アクセス

